

令和6年度 福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

<「教育に関する大綱（案）」について>

- 子どもの年齢や成長に合わせた「探究活動」や「主体的な学び」のきめ細かい具体案を教育全体の中で設計していけるとより効果的な学びにつながる。
- 学校だけで教育は成り立つものではなく、学校と地域社会はともに子どもを育てていくという視点が強く出せるとよい。
- 学校と地域社会がともに子どもを育てていくため、地域に自分の活動する場や、自分の興味のあることの中でチャレンジしていけるような環境がもっと充実していると子どもの主体的な学びの場にうまくつながっていくと思う。
- 「子どもが主役」という観点から考えると、勉強することが将来何の役に立つのか、自分の人生にどう活かされていくのかということをもう少し具体的に示すことができれば子どもたちの意識も高くなると思う。
- 現行の大綱における成果として、自己肯定感が上がったという結果は大変喜ばしい。
- ふるさと教育の中で、他の地域等との比較を通して、自分たちの地域をさらに見つめ直し、独自性のすごさに気づくことができる。それにより「地域の未来を構想する」ことや「自分の人生について考える」ことに思考がステップアップしていくと思う。
- 英語教育について、もう少し幼児とか小学校低学年の段階から英語に親しむ、楽しむような場が継続してあるとよい。
- 幼い時からいろいろな視点を持つ大人が周りにたくさんいることが将来を考えるための刺激になる。そんな大人がいることに気づくことが大事。
- 子どもだけでなく、親の悩みに対するサポートもしていけるとよい。
- 民間のフリースクールとの連携について、フリースクールの持っているノウハウを学校の教育の中に少し取り込んでいくこともよいのではないかな。
- 「子どもたちが主体的な学びをしている」ということが明確にわかる、先生方に

見えるような基準があることが望ましい。

- タブレットを活用して、画一的なスピードで全員に同じように教える一斉授業ではなく、子どもひとりひとりが自分に合った授業をやっていくなかで先生がサポートするような授業を実験的にチャレンジしてもらいたい。
- 主体的に子どもたちに学んでもらううえで、夢や希望というのは絶対原動力になるので、夢や希望を持たせることにもっと先生の時間を使ってもらいたい。
- 「県内進学・県内就職」について、少し外から福井を眺めるなり、外で修行してから福井に帰るというような選択肢も残した考え方が望ましい。
- ライフデザイン教育において、就職する際に福井県で働くことを選択肢として持ってもらい取り組みがまだ少し弱いと感じるため、「福井の未来を切り開いていく人材を育成していく」ということを福井県の教育の方針として打ち出すべき。
- 子どもたちの好奇心や疑問が湧き起こる授業を組み立てることにより、子どもたちが好きや得意という気持ちを持つことができる。先生方自身が好きな授業を子どもたちと楽しむような授業ができれば、その姿を見て子どもたちもそういう先生の姿に憧れるのではないか。
- ライフデザイン教育に関して、子どもの持っている力によって同じ職業でも活躍する場面が違うということを教えることが必要。そのことを子どもが知ることで、福井での職業選択の幅が広がる。
- 「福井県は福井県の子どもたちを愛して育てていく」というような感覚を、特に学校現場に直接かかわりのない周りの社会の人たちの意識も高めてほしい。
- いまの教育にあう形に先生も変わっていってもらうことが必要。それにあわせて学校という組織も見直していかなければいけない。
- 「安心して学ぶ場の充実」について、広い意味で、安心して信頼して福井で教育を受けられ、教育を受けた本人が誇りをもって福井に戻り、子育てしたいと思う姿が見えると、子どもに響いていく。
- 「好きを見つけて伸ばしていく、そしてその中で目標が見つかったらそれを途中でやめずに最後までやり抜く力を持っている」そんな子どもが育つ環境ができればよい。
- 教員という仕事がやりがいのある仕事だということをしっかりと発信していくことが重要。